

# 保安院「大飯3・4号機ST審査書」 批判

井野博満

(東京大学名誉教授、ST意見聴取会委員)

2012年2月20日参議院議員会館

# うかつにも「打ち切り」とは 気づかなかった

- 2月8日の第8回ST意見聴取会で、について多くの問題点が指摘され、議論が継続していた。残りの時間が少なくなって、保安院が次の議題に移ることを提案。
- 次回「継続審議か」と確認を求めたところ、市村課長はそれには答えず、「保安院で審査書を見直す」という趣旨の発言
- これは「今回で打ち切る」という意味だったらしい。ごまかされたことに後で気づいた

# これが審査基準なのか？

- 大飯3・4号STを“妥当”とした根拠は、  
「福島第一原子力発電所を襲ったような地震・津波が来襲しても同原子力発電所のような状況にならないことを技術的に確認する」
- しかし、「福島第一原子力発電所を襲ったような地震・津波」を具体的にどう大飯原発に当てはめるのか？

# 大飯原発STの問題点1

- 陸側の熊川断層が連動する可能性あり。その場合の地震動は $S_s$ の1.8倍を超える。
- 緊急安全対策が、瓦礫の山を前に、大雪や台風でも時間内に実現できるのかという疑問
- 制御棒の挿入性については検討対象から除外され、 $S_s \times 1.8$ における検証がなされていない。
- 事業者と保安院間の資料では、許容値を満足していない評価値が多数見受けられ(基礎ボルト等)、「工学的判断」で安全率が吐き出されている

# 大飯原発STの問題点2

- シビアアクシデント(過酷事故)に至った場合の被害(放射能汚染)の大きさが算定されていない
- したがって、「シビアアクシデント(過酷事故)に至った場合の影響緩和策」も書かれていない
- それらは、“二次評価”でやると逃げている
- 「本年内を目処とする」とした二次評価を出していない。保安院も催促していない

# ストレステストの基本的問題点

- フクシマ事故は安全審査の不備を如実に示した。従来の枠組みのままの審査ではだめだ
- 直接被害を受ける可能性のある市民・住民の審議への参加
- 個別プラント毎の評価ではなく、全原発を並べて評価すること。
- 福島事故の知見反映がなされていない
- 基準地震動を含めた耐震バックチェックの見直しをすべし。
- 福島第一・第二でストレステストの有効性を調べよ
- 設備・機器の現時点での経年変化を反映させよ
- 審査の中立性が疑問—JNES(原子力基盤機構)、聴取会委員の利益相反問題
- 傍聴者締め出しの不当性